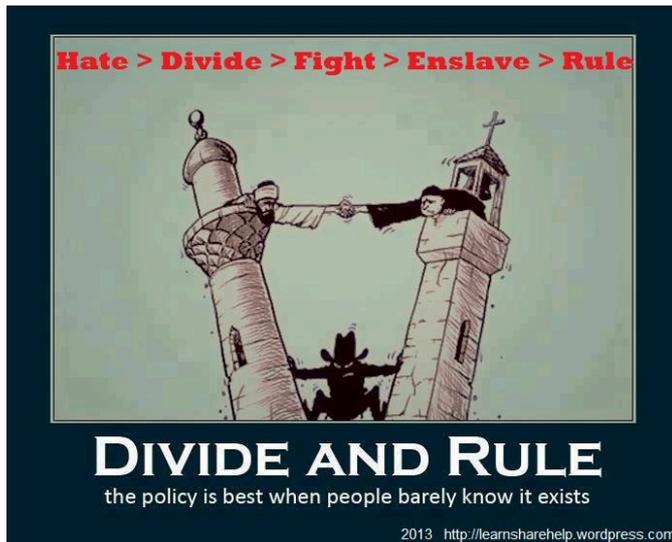


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。  
月間通信 7 月号をお送り致しました。  
何卒、よろしくお願い致します。



この画像、昨年 12 月にも掲載した画像

今朝、北海道の農家が笑わせてくれた。  
『望遠鏡と顕微鏡を持って』と言っていると 言った。  
ホーホーと感心していると、『いろんな厄介な坂があるが、まさか という坂が一番まずい』と。

なかなかの名言だ。それはさておき望遠してみると、  
なのか顕微してみると、なのか分からないが、実はこの  
数日私自身楽観視が始まった。

キッシンジャーが『ウクライナ戦争なんて早く止めて  
しまえ』と言ったとか。まさか彼が人道主義な訳ないから、  
その真意は何処にあるのか妄想してみる。元々ウ  
クライナ東部の 2 州は露国だから、さっさと割譲してし  
まい、収束させて、もっと肝心の代理戦争、台湾海峡  
で本筋の米中冷戦を始めろという事かも知れない。

そういえば、しきりに米国大統領は失言だと弁解し  
ながら、中華を刺激する事ばかり強調を始めた。ウクラ  
イナで露国を刺激する事ばかりをして来たのとそっくりだ。

みんなは、米国はリセッションすると決まりごとのよう  
に言うが、まさか今、彼の国をハードランディングさせる  
訳にはいかないの、壊滅とまでいかないところで資産  
価値を縮小させながら、ドルを単にひとつの地方通貨  
の位置に押しやっていく過程の為の仕掛けを作ってい  
る時期なのだろう。

世界の仕組みが変わるまで後 2 年半だ。『さっさとやれ』  
という事だろう。この間随分ドル離れが進んだ気がする。  
ドルが必要な国で物不足が常態化すれば、ドル高が  
進むのは当然だが、逆にドル離れが進めばドルの需要  
は減り、ドル安になる流れになるのも当然のこと。そこ  
で、物不足は解消するのかわかたが、これもコロナ騒  
ぎをして儲ける連中は充分儲けたので、そろそろアチコ  
チの港も機能を取り戻しつつある。

少し横道に逸れるが、根本的な事を見ておくと、コ  
ナは何だったのかを考えれば、人民に生命の不安を与  
えて、その為の財政出動に対して反対意見を封じ込  
め、一体どれだけの額を公共投資したとか。今までは、  
QE という名の金融に資金を投入して来た。この事  
により、米国はとくに破綻国家になっているのに更に経  
済発展を遂げて来たが、それも限界に達してこのまま  
ではハードランディング必死のところまで来た。14 年前  
のリーマンショックを見ればそれは分かる。

そろそろ金融経済について諦める時が来たという事だ  
が、経済を立て直すには何も金融にテコ入れするだけ  
ではなく、財政出動という手があるのは御存知の通り。  
所謂公共投資だ。歴史は繰り返されるというが、小学  
校の社会で習ったニューディール政策は、金融で 2 階  
に誘い出し、一気に梯子を外して 2 階に上がった者の  
資産を奪い去り、その結果発生した世界大恐慌を財  
政出動で立て直した同じ轍を踏むだけである。別にダ

ムを建設しただけでなく、金とドルの関係性もテコ入れしたが、言ってみれば財政出動ということになる。

コロナで医療関連産業に財政投入し、今度はウクライナ戦争で財政投入している。共に命にかかわる問題には、人間は口をつぐむ習性があることを利用した天井知らずの財政出動だと思う。

その事で、米国のハードランディングをソフトランディングに切り替えるには、ウクライナでは米国の規模に足りなくて、いよいよ本命の米中戦争を引き起こす必要があり、それを『早くやれ』という事なのかもと想像している。確かに医療産業も軍事産業も裾野が広いので経済効果はある程度功を奏するのも知れない。

話を戻すと、元々生産力は技術革新で圧倒的に物余り現象になっていたのに、何で急に物不足になるんだという疑問。みんなその事由は知っている。その事由が解消されれば、元に戻る。小麦だって露国が制圧した港は既に開いている。ゼレンスキーなる元お笑い芸人が意味も分からず乗せられているだけ。これをサッサと収めるとのお達しが来たので、やがて自分がピエロと気づき尻尾をまいて退場すると、あそこは平常に戻る。現にアチコチの港には積み出せない在庫で溢れ返っていると聞く。物不足なんて真っ赤な嘘だろう。

だから、秋から年末にかけて、少なくともドル・円の相場は元の 110 円～105 円程度に戻るような気がする。これを楽観と呼んでいる。

そもそもインフレーションとは、生産能力を超える需要が高まった時に発生する現象を言ったはずだ。

ところが人為的にお金をいっぱい刷れば、今回の様に物の価値は変わっていないのに、代金は上がって来る。これは豊かになった訳では無く、単に市中の貨幣の量が増えただけ。これが米国の物価高になっているので、金利を上げ、引き締めめに転じ始めている。市中の貨幣の量が減少すれば、買いたくても買えないので、やがて代金は下がっていく事になる。だから今の状況をインフレと呼ぶことには抵抗がある。

コロナで医療関係事業が儲けた後は、軍需産業に儲けさせて経済の落下を防ぐ番になり、そうなれば先の御仁が、ウクライナなんてサッサと……というのは、頷けるところがある。ということは、もう少し大掛かりな、実際に実弾飛び交うようになるかどうかは別にして、中華を消耗させる戦略が登場することになる。目的は、米中の消耗にあるような気がする。

では、目的の目的は何なのかという話しになる。それは、ドルで儲けた連中がドルでは儲けられなくなったということかな。元々ブレトン・ウッズ協定で Gold に対して料率を決めたドルだったが、それが足かせになったので、ニクソンをスポークスマンにして、ドルを Gold から解放し天井知らずに刷り増しを可能にした。何にでも限界はあるもので、そうして無理をしてもこれ以上という点に達した。ここには技術革新が実需要を上回った、という事実が関係していると自分なりに想像しているが、これ以上という状況になれば、その状況を維持しながら、より支配を強化する体制作りという事になる。

話しが逸れない程度に書くとすると、実は彼らはシンギュラリティの到来を歓迎していないかも知れない。『衣食足りて礼節を知る』と管子が言ったとの事だが、これは明らかにおかしな表現だ。衣食とは欲の事で、欲は飽くことが無いので、いつまでも足りる事は無い。もし、足りたと自覚する事が出来れば、それは欲の本質を身に着けた事なので、その本質は礼節に過ぎない。それ故、礼節を知れば欲である衣食はその時点で足りている事に気づく。シンギュラリティは、これを齎す可能性がある。衣・食・住は人間の基本的な生存要件なので、これにコストが伴わず、しかも MMT に依って税金も支払わずとも済むという事になれば、すべて国家も国民もボランティアで賄われることになり、つまり貨幣の崩壊につながる。貨幣に対する欲求を支配の根拠としているならば、貨幣が崩壊すれば、支配体制も崩れる事になる。